日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2006年 9 月

小単位による地域づくりを支援する地域空間計画に関する研究

岩手県九戸郡（旧）大野村における「おおの・キャンパス・ビレッジ」構想による地域づくり実践

正会員 ○ 野原 卓*
正会員 北澤 猛**
正会員 遠藤 新***

集落単位　自律型地域づくり　地域間連携
地域再生計画　農村集落　中山間地域

1.研究の背景と目的

わが国における少子高齢化、人口減少化といった現代の社会的状況の中で、地方中小都市・地方集落・農村地域のあり方が問われている。都市部と地方部を秩序づけていた、従来型の「都市（消費地）－農村（供給地）」モデルによる関係性は崩れ、地方は深刻な活力低下に直面している。また、市町村合併や地方分権化も進展し、自治体間競争の時代を前に、各地方においてもアイデンティティの確立が模索されている。

このような地方の枠組み再編が必要な現在において、地方の地域・集落は、それぞれが自律した単位でコミュニティを確立する積み上げ型の地域づくり及びこれらの地域づくりの連携によって、社会経済情勢や上位の組織形態に左右されることなく、効果的に地域づくりを進めることが可能となる。

よって、本研究では、岩手県九戸郡（旧）大野村をケーススタディとして、地方中山間地域における、地域・集落といった小単位の自律型地域づくりと、その連携による自治体レベルでの地域づくりを検討し、地方部における地域空間計画を用いた地域再生の方法論を構築することを目的とする。

2.（旧）大野村と「おおの・キャンパス・ビレッジ」

岩手県九戸郡（旧）大野村は、岩手県北部内陸に位置し、人口約 6 千人の、畜産・農業を中心とした中山間地域である[*1]。同村では、かつてからの中心地区である大野地区と、年間 30 万人の集客力をもつ「おおのキャンパス」（産業デザインセンター）という二つの核、そして周辺農村集落とが、お互い関係性を持たないまま、孤立した構造を抱えていた。

そこで、東京大学都市デザイン研究室をまちづくりアドバイザーとして、観光の中心施設である「おおのキャンパス」を核としながら、各周辺集落と連携することにより、大野村全体における集客・地域活性化の相乗効果をねらう「おおの・キャンパス・ビレッジ」構想が提案された。「おおの・キャンパス・ビレッジ」は 4 つの発展段階（初期段階・育成段階・成立段階・発展段階）としてみることができる（図 1）。

ここでは、周辺集落を大野地域（中心市街地）、向田地域、林郷地域、帯島地域、水沢地域という、小学校区を中心とした 5 つ[*2] の地域（サテライト・キャンパス）として捉え、各集落がそれぞれの地域の個性・活力・地域資源を活かしながら、自律的コミュニティを確立するための計画を策定し、成熟段階において地域間連携によって、（旧）大野村としての発展に結びつけることを図っている。また、おおのキャンパスの集客力を地域活力にも利用し、地域の農産物等をおおのキャンパスで販売することで購買力を高めるなどの相互連携をとることによる相乗効果も狙いの一つである。

4.「おおの・キャンパス・ビレッジ」計画の方法論

（1）地域―行政―大学の「協働地域づくり」

本計画においては、行政、地域、そして大学の役割を分担しながら連携する、協働型の地域づくりを目指した。地域づくりの主役としての地域住民、先導的な事業展開と制度・資金面での支援を担う行政、協働の場づくり及び技術提案・計画立案を行う大学による三位一体の計画づくりが行われた。

行政においては、地域づくり組織として「庁内プロジェクトチーム」を設置し、分野横断的に地域づくりを調整した。

次に、地域づくりの主体として各地域に「地域づくり推進部会」が創設され、地域計画策定の主体とした。明確な組織構成のない中山間地域において、住民中心の計画策定主体を創設したことで、スムーズに計画策定作業が進行した。各地域計画立案のサポートとして大学が支援を行っている。

また、計画策定後の地域活動実践の支援策として、行政による助成金支援である「地域おこし支援事業」が設けられ、年に２団体、上限 100 万円として地域づくりを行う団体への支援の仕組みが設けられ、平成１2 年度より実施されている。

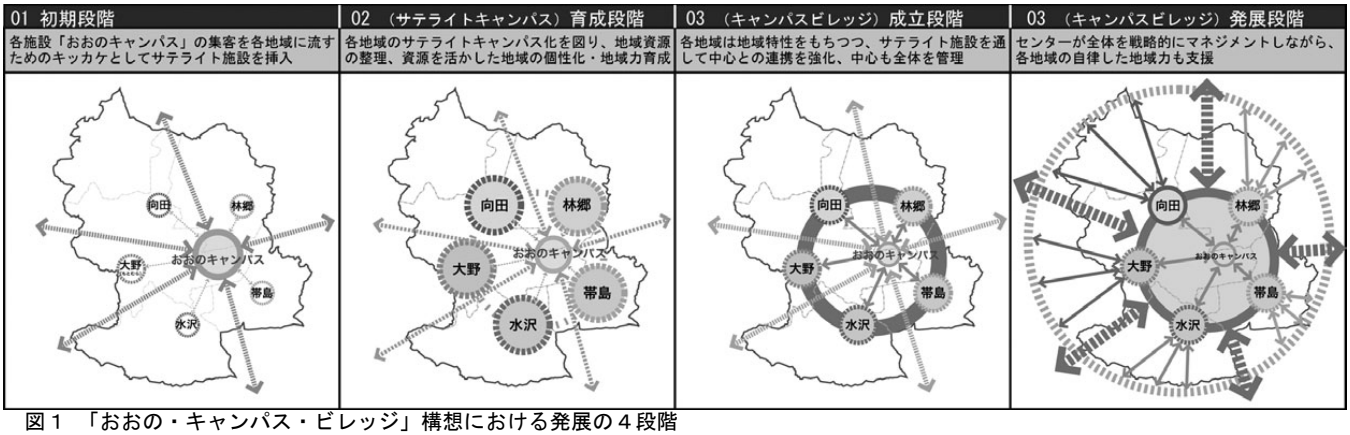

図１ 「おおの・キャンパス・ビレッジ」構想における発展の４段階

A Study for the Community Spatial Plan contributing to community-scale planning
Case-Study on the Method of Community Planning Making Use of “Ohno Campus Village Plan” in OHNO-Village

Taku NOHARA, Takeru KITAZAWA, Arata ENDO

（2）計画―実験―実践の「アクティブプランニング」

本計画では、地域づくり計画の策定や提案を行いながら、これを実証するためのイベントを通した実験等を行い、その結果を踏まえて計画を修正しながら、活動・事業を実践するというプロセスを踏んでいる。計画・実験・実践が並行的に行われることで、実験結果を計画に反映したり、先行整備を様子を見ながら行ったり、実践が計画に影響を与えたりといった、状況を踏まえたアクティブプランニングを実践した。

（3）「サテライトキャンパスプラン」と地域づくり計画

本計画においては、各地域集落が自律的なコミュニティを形成することで全体の効果を発揮することを目標としており、まずは地域の個性や資源を整理しながら、これらを活かして地域の活力アップを図る「サテライト・キャンパス・プラン」の考え方の下、各地域で地域づくり計画が策定された。

表 1　策定された地域づくり計画

地域	地域づくり計画名	策定年度
大野地域	もとむら再生計画	H13-14 年度
向田地域	向田地域づくりの提案	H15 年度
林郷地域	林郷スクール構想	H16 年度
帯島地域	帯島芸術ファーム構想	H17 年度
水沢地域	みっちゃあミュージアム構想	H17 年度

（4）地域づくり推進のためのアクションプラン

特に活発な地域づくり活動の行われていなかった初動期の地域においては、地域づくりを先導する必要性がある。ここでは、①サテライト施設の整備、地区センターの整備、街並みをつくる先行的な公共整備による目に見えるキッカケづくり、②イベントを用いた地域づくり実験とそれ自体による地域活性化、③地域を中心とした計画策定の「場」づくりと地域活動の支援体制の確保といった段階的なアクションプランを用意し、地域づくりの段階的展開をプログラムとしている。

5.プラン実行の効果と課題

表 2　地域づくり計画を基に実施された事業・活動（策定中含）

地域名	実行された事業・活動	実施年	主体
大野地域	消防コミュニティセンター改修	2001.03	行政
	明寿橋の改修	2002.03	行政
	大野夢市（中心市街地イベント）	2001-2004	商工会
	店先の暖簾設置	2001.06	商店
	街路灯整備	2002.03	行政
	ポケットパーク整備	2002.08	行政
向田地域	豆風鈴（大豆加工施設）整備	2002.03	行政
	豆風鈴の管理運営	2002.04-	組合
	向田児童館整備	2003.04	行政
	案内看板及びベンチの設置	2003.09	地域
林郷地域	雑穀黄金　整備	2003.04	行政
	雑穀黄金の管理運営、のぼり作り	2003.04-	組合
	権谷地区センター　整備	2004.04	行政
	地区センター環境整備（植栽）	2004.09-	地域
	林郷児童館　整備	2005.04	行政
	収穫祭の実施	2004.10	地域
帯島地域	味菜館　整備	2004.03	行政
	味菜館の管理運営	2004.04-	行政
	二ツ屋映画祭	2004.11	地域
水沢地域	プロジェクトＪ（中高生地域づくり組織）	2004.08-	地域
	看板づくり	2004.10-	地域
	おおのパン工房　整備	2005.03	行政
	おおのパン工房の運営管理	2005.04-	組合
	大野ダム周辺桜植樹	2005.04	行政・地域
	えんがわカフェ（曲家開放イベント）	2005.09	行政・地域

自治体全体の計画（キャンパス・ビレッジ）とともに、各地域ごとにおける住民主体の独自の地域づくり計画を策定することで、地域の目標像を共有化することができ、この計画に基づいた、行政の事業、地域住民の活動が活発化し、多くの地域づくりが実行された（表２）。しかし、実効の度合いに関しては、活動主体やメンバーにより地域間の差異が大きく、課題が残る。この差は、地域活動の単位、範囲、あるいは地域活動の活発度の違いなどにも起因しており、地域活動の状況を踏まえた地域づくり計画の策定が今後の課題である。

*1 2006 年 1 月には、隣接する種市町（人口約 14,500 人）との合併し、洋野町としてスタートした。
*2 平成 16 年度より、水沢小学校は帯島小学校と統合したため、現在の小学校区は 4 学校区となっている。

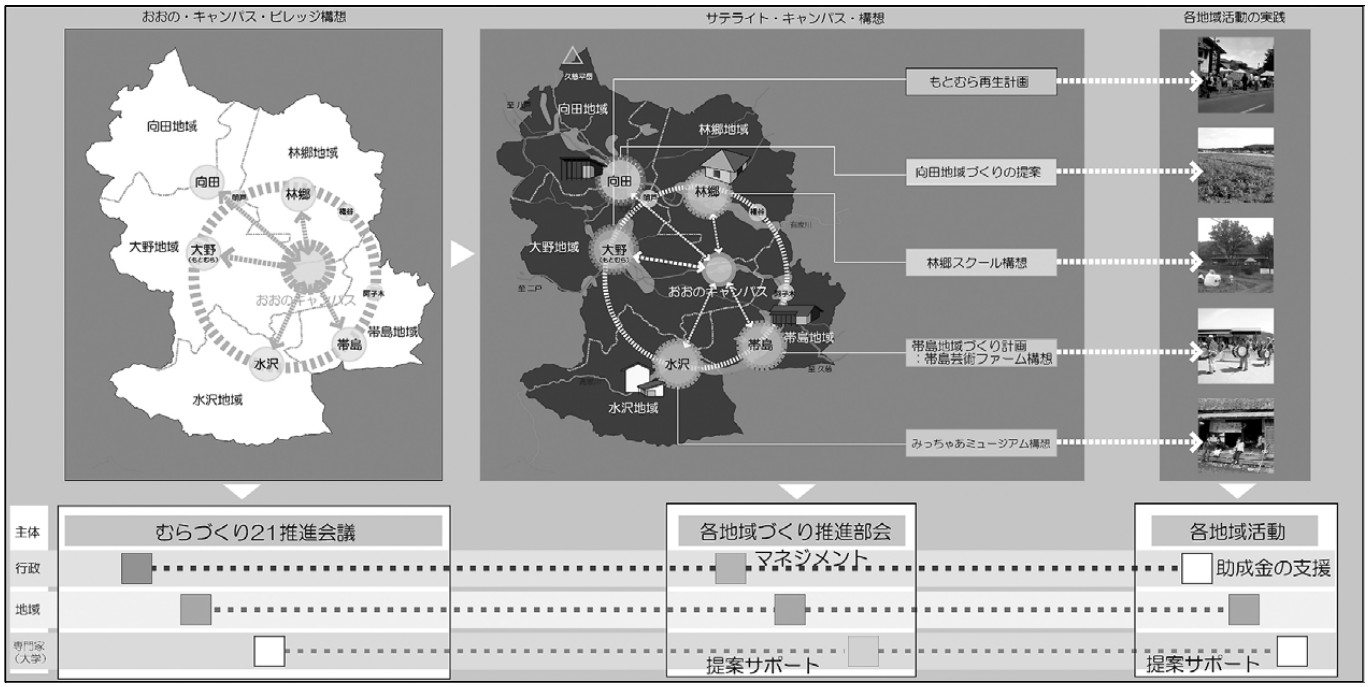

図２　「おおの・キャンパス・ビレッジ」構想のフレームワークと各主体の役割

*東京大学国際都市再生研究センター　特任助手・工修
**東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学専攻 教授・工博
***金沢工業大学環境・建築学部 建築都市デザイン学科 専任講師・工博

* Research Assoc., The Center for Sustainable Urban Regeneration, Univ. of Tokyo, M.Eng.
** Professor, Department of Socio-Cultural Environment, Graduate school of Frontier Sciences, The University of Tokyo, Dr. Eng
***Full-time Lecturer., Dept. of Environmental and Urban Design, College of Environmental Engineering and Architecture, Kanazawa Institute of Technology, Dr.Eng.